

訪問での精神科作業療法

特集にあたって

本企画は訪問を手段とする精神科作業療法（＝精神科訪問作業療法）の特集である。

精神科領域の作業療法士は、以前からその大部分が精神科病院の作業療法室やデイケアに勤務しており、現在もその状況に変化はない。しかしながら、訪問看護ステーション勤務を中心とした、訪問を手段とする作業療法士は相当に増えており、筆者もケア会議等で訪問の作業療法士と顔を合わせる機会が増えている。また、訪問看護ステーション等に勤務する（主たる業務が訪問）作業療法士だけでなく、普段は入院患者さんを対象としているが、週に何件かは訪問をしている（従たる業務、兼務といった形態で訪問をしている）作業療法士も少なくない。従たる業務とまではいかなくとも、退院前訪問等を含め、何らかのかたちで訪問での精神科作業療法を経験したことがあるという作業療法士は多いのではないだろうか。

今回の特集では、精神科訪問作業療法について、その現状や課題、担う役割、精神科訪問看護との違い、目指すべき方向性等を整理した。さらに、精神科訪問作業療法での作業療法士の役割、求められる能力を明確にし、ニーズを示した。加えて、訪問を手段とする精神科作業療法の各フィールドでの実践のあり様、課題についても紹介することで、読者が提供する精神科作業療法の質の向上に寄与したい。

（岩根 達郎）

企画担当

岩根 達郎（京都府立洛南病院、作業療法士）

香山 明美（東北文化学園大学、作業療法士）

長野 敏宏（御荘診療所、医師）